

2025 年度「国際交流基金賞」受賞記念講演会

10 月 23 日 鄭 起永 氏、10 月 24 日 マーティ・グロス 氏

国際交流基金（JF）は、学術や芸術などのさまざまな文化活動を通じて、日本と海外の相互理解促進に顕著な貢献のあった個人または団体を「国際交流基金賞」として顕彰しています。JF 設立の翌年の 1973 年から実施している本賞は、今回で 52 回目を迎えます。

2025 年 8 月 27 日付で発表しましたとおり、今年度の受賞者は、**マーティ・グロス（Marty Gross）氏**、**鄭起永（ジョン・ギヨン／JUNG Giyoung）氏**に決定しました。2025 年 10 月 23 日（木）、10 月 24 日（金）に、**それぞれの受賞者による「受賞記念講演会」を一般公開で開催**しますので、貴媒体で取り上げていただきたくご案内申し上げます。

取材をご希望の方は、下記と後頁をご参照の上、各締切日までに広報担当者にご連絡願います。ご多用とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご取材くださいますよう、お願い申し上げます。受賞者への個別取材につきましても、広報担当者までご相談ください。

記

講演会概要（実施日順）：

鄭 起永（ジョン・ギヨン／JUNG Giyoung）氏 受賞記念講演会

「韓国の日本語教育 釜山からの発信」

日時：2025 年 10 月 23 日（木）18:30～20:00（18:00 開場）

会場：国際交流基金（JF）本部 ホールさくら（東京都新宿区四谷 1-6-4 四谷クルーセ 1 階）

登壇者：鄭 起永 氏（釜山外国語大学 教授）

使用言語：日本語

主催：独立行政法人国際交流基金（JF）

概要：

釜山は古くから日本への玄関口となってきた都市です。戦後、韓国では政治・経済・文化・教育など社会のすべてがソウル中心になりました。日本との交流や日本語教育も同じです。1994 年、鄭 起永氏は母校の釜山外国語大学の日本語学科に着任以来、釜山や外国語大学ならではの日本語教育を目指し、釜山から新たな発信をしたいと考え、釜山に日本語教育の最大拠点を作り、日韓の架橋となる若い人材をたくさん育て日韓の社会に送り出してこられました。その結果が、今や韓国最大の日本語教育機関、釜山外国語大学「日本語融合学部」につながっています。本講演ではその試みや挑戦を紹介します。



この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

マーティ・グロス（Marty Gross）氏 受賞記念講演会

「民藝フィルムアーカイブをつくる ― フィルムのデジタル保存と語りの記録」

日時：2025年10月24日（金）18:00～20:00（17:30 開場）

会場：国立能楽堂 大講義室（東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1 2階）

登壇者：マーティ・グロス（Marty Gross）氏（マーティ・グロス・フィルム・プロダクション、プロデューサー／監督）

使用言語：日本語

主催：独立行政法人国際交流基金（JF）

概要：

ともすれば人々の記憶から消えてしまうかもしれない、名もない民藝品の数々。マーティ・グロス氏は日本各地に職人を訪ね歩き、対話を重ねながら、一つ一つ語りの記録として残す作業を長年行ってきました。こうした活動は、職人の技や背景にある暮らしを未来へ伝える営みでもあります。本講演においては、これまでに築き上げられてきた多様なアーカイブ作品を手掛かりとして、アーカイブに対するグロス氏の思いを紐解き、当時の記憶を鮮やかに蘇らせることとなるでしょう。



photo by Grant Delin

【取材のお申し込み方法】

会場手配の都合上、ご出席いただける場合には、10月21日（火）17時までに以下のフォーマットに必要事項を記入の上、お申し込み願います。

<https://form.qubo.jp/jpf2025-press>

本案内を書面でお受け取りになった場合、以下の QR コードを携帯電話やタブレット端末で読み込みいただくか、①撮影の有無（ムービー／スチール）、②貴社名、③ご所属部署名、④貴媒体名、⑤ご芳名、⑥TEL、⑦E メールアドレスをご記載の上、下記の E メールアドレスにお申し込みいただければ幸いです。



promotion@mainichi-ks.co.jp（国際交流基金賞 取材窓口）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

2025（令和 7）年度 国際交流基金賞 受賞者

■鄭 起永（ジョン・ギヨン）（釜山外国語大学校 教授）【韓国】

JUNG Giyoung (Professor, Busan University of Foreign Studies) [Republic of Korea]



【授賞理由】

鄭起永（ジョン・ギヨン）氏は、30 年以上にわたり韓国の高等教育機関において日本語教育の研究と実践を牽引し、教育者・研究者・大学経営者として多面的な業績を重ねてきた。釜山外国語大学校では日本語専攻を学部レベルへ昇格させ、「韓日文化コンテンツ専攻」「ビジネス日本語専攻」「日本 IT 専攻」を設置し、1000 名超の学生を擁する「日本語融合学部」へと発展させた。これは日本語教育の専門化・多様化を先導する取り組みであり、学術的・実務的進路を支える基盤整備として高く評価される。

また、鄭氏は教育方法や教材開発においても先駆的で、ICT の活用、文字教育教材の開発、Can-do 評価の導入など、日本語教育が求められる課題に積極的に取り組み、研究成果を挙げ、国内外で評価されている。加えて、学会運営や教員養成、行政との連携にも携わり、日本語教育の制度的基盤の整備にも尽力してきた。

国際相互理解と友好親善への貢献も顕著である。2003 年からの対馬における漂着ごみ清掃活動では、日韓の学生・住民・NPO の協働により、環境保全と信頼回復の新たな実践モデルを構築。また、韓国人学生の日本企業への就職支援にも継続的に取り組み、2010 年以降、累計 364 名以上を日本に送り出すなど、職業人材交流にも成果を上げている。これらの活動は語学教育を超えて、人的・文化的なネットワーク構築に寄与している。さらに、2012 年には継承語教育の拠点として「釜山日本村」を設立し、日本語・日本文化の継承に尽力。その成果は出版・情報発信され、地域のモデルケースともなっている。2024 年には釜山韓日文化交流協会会長に就任し、地域社会に根ざした交流の深化にも貢献している。



韓日友好の夕べ（社団法人釜山韓日文化交流協会提供）

このように、鄭氏は日本語教育を基盤に、環境・雇用・文化継承といった社会的課題と教育を結びつけ、日韓相互理解の橋渡し役として尽力してきた。その功績は国際交流基金賞の理念にふさわしく、今後のさらなる活躍を強く期待し、本賞を授与するものである。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ マーティ・グロス（マーティ・グロス・フィルム・プロダクション、プロデューサー／監督）【カナダ】
Marty Gross (Producer/Director, Marty Gross Film Productions Inc.) [Canada]



photo by Grant Delin

【授賞理由】

マーティ・グロス氏はカナダの映画監督、アーキビストであり、長年にわたって日本文化を世界に紹介してきたコンサルティング・プロデューサーである。

1948 年トロントに生まれ、同地のヨーク大学で東洋学を専攻し、70 年に来日して陶工の修行に励んだ。映像作家として活動を開始したグロス氏は、支援が必要な児童への、自らのスタジオでの美術教育に関するショート・フィルム『AS WE ARE』を製作し、次に、福岡県の小石原焼や大分県の小鹿田焼の陶工たちに密着取材した『陶器を創る人たち』（1976）を発表したのち、『文楽 冥途の飛脚』（1980）を監督。全編を 1 時間半にまとめた巧みな構成、人形・人形遣い・義太夫それぞれの見せ場を余すところなく伝える多角的なカメラワーク、Donald Richie による的確な英語字幕など、

魅力的な要素に彩られた同作は、文楽の海外への紹介に大きな役割を果たした。

日本映画界との交流を深めたグロス氏は、米国の映画配給会社クライテリオンの日本部門コンサルタントとして多くの日本の古典的名作映画ソフトの販売・公開に尽力し、関係者インタビューも担当して日本映画史に係る数々の貴重な証言を引き出している。

そして現在も進行中のグロス氏の大きな業績は、映像作品を収蔵・修復するアーキビストとしての仕事である。氏は英国の陶芸家バーナード・リーチが 1930 年代に撮影した「民藝運動」の 16 ミリ記録映像を発掘・修復して公開する「民藝運動フィルムアーカイブ」を自身のプロダクションで手がけている。民藝運動とそれに関連する映像素材を求めて日本・韓国・英国・米国などを自ら訪れて収集した映像の集積は大きなアーカイブを形成するに至っており、職人が作り出す日常生活用品に美を見出した民藝運動の姿を現在に蘇らせることに大きな貢献を果たしている。



大映京都撮影所での『文楽 冥途の飛脚』の撮影

このようにマーティン・グロス氏は長年にわたり日本の伝統芸能や民藝運動とその映像を通じた国際相互理解の促進に貢献してきており、その業績は国際交流基金賞にふさわしい。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp